

熊本地域リハビリテーション科専門研修プログラム

1. プログラムの概要・特徴

【概略】

リハビリテーション（以下リハ）科（部）は当院でリハビリテーション医学・医療を担当する部門です。主に熊本リハビリテーション病院が基幹病院（管理病院）となり、関連病院とともに研修するセンター方式です。主に新医師臨床研修制度の2年間で終了した医師を対象に、リハビリテーション専門医を目指す後期研修3年間の研修プログラムとしています。熊本県にはリハビリテーション医学会研修施設が11施設（熊本大学病院リハビリテーション科、熊本赤十字病院リハビリテーション科、熊本市市民病院リハビリテーション科、くまもと県北病院リハビリテーション科、熊本機能病院リハビリテーション科、熊本リハビリテーション病院リハビリテーション科、熊本託麻台リハビリテーション病院リハビリテーション科、熊本回生会病院リハビリテーション科、江南病院リハビリテーション科、山鹿温泉リハビリテーション病院リハビリテーション科、宇城総合病院リハビリテーション部）が確保されています。

【特徴】

本研修プログラムの3年間で急性期病院における急性期リハビリテーションの研修、回復期病床における回復期リハビリテーションの研修、専門性のあるリハビリテーション医療の研修の3本柱から成る研修を可能となります。また、連携施設において維持期（生活期）のリハビリテーション、障害者福祉などを経験することができます。熊本大学病院リハビリテーション科は、特定機能病院として高い専門性を有し、患者本位の医療の実践のために、幅広い基本領域とサブスペシャリティの診療科を備え、臨床医学の発展および医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献しています。リハ科（部）は、ICU、HCU、CCU、NICU、SCU、GCUを含む全診療科からの依頼を受け、早期から各診療科と密に連携し、エビデンスに基づいたリハ医療を提供しています。ここではリハ科が診る疾病・障害である、(1) 脳血管障害、頭部外傷など、(2) 運動器疾患・外傷、(3) 外傷性脊髄損傷、(4) 神経筋疾患、(5) 切断、(6) 小児疾患、(7) リウマチ性疾患、(8) 内部障害、(9) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）を幅広く経験することができます。当院にて多岐にわたる疾患・障害の急性期や重症例のリハを経験することは、回復期→生活期のリハマネジメントにも十分役立つことができます。

2. 研修の目標

1) 専門知識

知識として求められるものには、リハビリテーション概論、機能解剖・生理学、運動学、障害学、リハビリテーションに関連する医事法制・社会制度などがあります。詳細は研修カリキュラム（日本リハビリテーション医学会ホームページからダウンロードできます）を参照してください。

2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

専門技能として求められるものには、リハビリテーション診断学（画像診断、電気生理学的診断、病理診断、超音波診断、その他）、リハビリテーション評価（意識障害、運動障害、感覚障害、言語機能、認知症・高次脳機能）、専門的治療（全身状態の管理と評価に基づく治療計画、障害評価に基づく治療計画、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、義肢・装具・杖・車椅子など、訓練・福祉機器、接触嚥下訓練、排尿・排便管理、ブロック療法、心理療法、薬物療法、生活指導）が含まれます。それぞれについて達成レベルが設定されています。詳細は研修カリキュラムを参照してください。

3) 経験すべき疾患・病態

(1) 脳血管障害、外傷性脳損傷など (2) 脊髄損傷、脊髄疾患 (3) 骨関節疾患、骨折 (4) 小児疾患 (5) 神経筋疾患 (6) 切断 (7) 内部障害 (8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）の8領域にわたります。詳細は研修カリキュラムを参照してください。

4) 経験すべき診察・検査等

詳細は研修カリキュラムを参照してください。

5) 経験すべき手術・処置等

詳細は研修カリキュラムを参照してください。

6) 習得すべき態度

基本的診療能力（コアコンピテンシー）に関することで、詳細は研修カリキュラムを参照してください。

7) 地域医療の経験

詳細は研修カリキュラムを参照してください。本研修PGでは、基幹施設と連携施設それぞれの特徴を生かした症例や技能を広く、専門的に学ぶことができます。

3. 研修の方略

【 研修期間 】

I 専門研修1年目

専門研修1年目では、基本的診療能力およびリハビリテーション科基本的知識と技能の習得を目標とします。基本的診療能力（コアコンピテンシー）では指導医の助言・指導のもと、別記の事項が実践できることが必要となります。また、基本的知識と技能は、研修カリキュラムでAに分類されている評価・検査・治療の概略を理解し、一部を実践できることが目標となります。初年度の最初の6か月間の研修先病院は、専攻医の強い希望がない限り基幹施設である熊本リハビリテーション病院リハビリテーション科です。回復期リハビリテーション分野を中心に幅広い知識・技術が習得可能です。指導の手厚い病院ですので、しっかりと基本的診療能力を磨き、専攻医としての態度をレベルアップすることが必要となります。指導医は日々の臨床を通して専攻医の知識・技能の習得を指導します。専門医は、院内での研修だけでなく、院外活動として、学会・研究会への参加などを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。

II 専門研修2年目

専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、診療スタッフへの指導にも参画します。リハビリテーション科基本的知識・技能を幅広い経験として増やすことを目標としてください。特に1年目の熊本リハビリテーション病院で経験できなかった技能や疾患群については積極的に治療に参加し経験を積んでください。指導医は日々の臨床を通して専攻医の知識・技能の習得を指導します。専攻医は、学会・研究会への参加はただ聴講するだけでなく質問などの発言や発表できるよう心がけ、関連分野においては実践病態別リハビリテーション研修会 DVD などを通して自らも専門知識・技能の習得を図ってください。

III 専門研修3年目

専門研修3年目では、カンファレンスなどでの意見の集約・治療方針の決定など、チーム医療においてリーダーシップを発揮し患者さんから信頼される医療を実践できる姿勢・態度を習得してください。またリハビリテーション分野の中で8領域のすべての疾患を経験できているかを意識して、実践的知識・技能の習得に当たってください。指導医は日々の臨床を通して専攻医の知識・技能習得を指導します。専攻医は学会での発表研究会への参加や DVD などを通して自らも専門知識・技能の習得を図ってください。

4. 研修の評価

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに基本的診療能力（コアコンピテンシー）とリハビリテーション科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へさらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。

- 指導医は日々の臨床の中で専攻医を指導します。
- 専攻医は経験症例数・研修目標達成度の自己評価を行います。
- 指導医も専攻医の研修目標達成度の評価を行います。
- 医師としての態度についての評価には、自己評価に加えて、指導医による評価、施設の指導責任者による評価、リハビリテーションに関わる各職種から、臨床経験が豊かで専攻医と直接かわりがあった担当者を選んでの評価が含まれます。
- 専攻医は毎年9月末（中間報告）と3月末（年次報告）に「専攻医研修実績記録フォーマット」を用いて経験症例数報告書及び自己評価報告書を作成し、指導医はそれに評価・講評を加えます。
- 専攻医は上記書類をそれぞれ9月末と3月末に専門研修プログラム管理委員会に提出します。
- 指導責任者は「専攻医研修実績記録フォーマット」を印刷し、署名・押印したものを専門研修プログラム監理委員会に送付します。「実地経験記録様式」は、6か月に1度、専門研修プログラム管理委員会に提出します。自己評価と指導医評価、指導医コメントが書き込まれている必要があります。「専攻医研修実績記録フォーマット」の自己評価と指導医評価、指導医コメント欄は6か月ごとに上書きしていきます。
- 3年間の総合的な修了判定は本研修プログラム統括責任者が行います。この修了判定を得ることができてから専門医試験の申請を行うことができます。